

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 ICT幸せ研究会

テーマ ICTを活用して、大垣桜高校の先生も生徒もハッピーになれる環境の提案

取組のポイント・成果

現状

教務の時間割係が毎日手書き（2か所）で書いている。生徒もその情報を見るために移動している。

当初改善案

ラズベリーパイを活用しパソコン上のデータを転送し、ディスプレイに映し出すことで教員、生徒もハッピーにする。

オール岐阜『生命の防衛』宣言等による人流抑制により講師派遣等を断念、大幅に方向性を修正



（新しくメンバーを募集し、新たな方向性を探るための校内会議 7/13）

令和3年度学校におけるICT教育にかかる変革

- ・ Microsoft Forms の導入による遅刻・欠席連絡の改善
- ・ Microsoft Teams（クラスごと）・manaba の導入



（Microsoft Teams / manaba 研修 8/26）

新たな改善案

- ・Microsoft Teams をプラットフォームにして、時間割変更等の情報を日常的に全校に流すことで生徒はタブレット端末でその情報を得ることができる。(10月の企画委員会・職員会議で職員用の Teams 作成を提案)

新たな課題

- ・すぐメール、グループウェア(電子会議室)、タブレット端末(MetamoJi、manaba)等が日常的に使える状態になっている。それらを定着させる時期に、さらに Microsoft Teams を導入すると、情報のプラットフォームに乗り切れない教員が出てしまう。
- ・校務を行っていく上ではグループウェアの機能で概ね足りている。Teams に変える必然性が見当たらない。

検討会議(11月18日)

- ・年度途中での変更は職員、生徒とも混乱させることにならないか。
- ・年度が変わるときに変更することが望ましい。
- ・新年度は Teams を学年ごとに作成してはどうか。
- ・遅刻・欠席連絡については一本化が難しい(Forms、管理当番(電話)、事務(電話)の3系統を一つにはしにくい) → 学校の都合だけでは決めにくい。保護者等の意見も聞く必要がある。
- ・他校の様子から、現在は時間割変更をプラズマディスプレイに掲示している学校はほとんどないことが分かる。もしも生徒に伝えるならば Teams が望ましい。

今年度のゴール

- ・新年度に向けて、クラスごとの Teams を学年ごとに切り替え、準備しておく。
- ・校務のデジタル化推進校の取り組みを参考に、Power Automate により Microsoft Forms の情報を Teams 上に一本化する準備をする。

今後の課題

○新システムの移行期の取り扱い

- ・決定のプロセスについては、多くの意見を参考にしながら管理職の考えもよく理解しておく。
- ・学校には、教員だけではなく、非常勤講師、助手、事務職員、会計年度任用職員様々な方が働いているので、それらの立場にいる方も尊重する。

○思いやりの心

- ・アナログ時代に培ってきた思いやりの心をもって、改善プランを提案する。